

## 2020年度 第1回学術問題検討委員会 議事録

日時：2020年12月19日（土） 21時00分～22時30分

場所：ZOOM会議

参加者：土山委員長、塩見委員、小林委員

（事務局）荒木

（オブザーバー）杉渕

### 開会

#### ■自己紹介

#### ■議事

(1) 日本学術会議推薦会員任命拒否問題と検討委員会の取組について

【趣旨説明】（荒木）

- ・資料に基づき、日本学術会議推薦会員任命拒否問題に関する経緯と、この間の自治体学会内での動きについて説明。
- ・10月11日に開催された臨時評議員会の決定を受け、10月15日付けの理事長声明で、「検討プロジェクトチーム」を設置し、日本学術会議会員任命拒否問題の件について自治体学会として検討すること、その人選は理事会で行うことが示された。
- ・この「検討プロジェクトチーム」は、自治体学会規約第14条に基づく「学術問題検討委員会」とし、その委員長に土山希美枝氏が、また、委員として塩見牧子氏、小林美智子氏が選任された。
- ・本日、①これまでの経過と検討委員会について情報共有し、②検討委員会の運営についての検討を行っていただければと思う。

【意見交換】

- ・日本学術会議の問題は様々な論点を含んでいる。まずは、法律上の論点。日本学術会議の会員任命制度自体の設計、学問の自由との関係をどう考えるか。また、公務員の政治活動という点からはどう考えるか。それが公務の現場でどう理解されているか。
- ・次に、臨時評議員会でも、積極的な提案、影響を懸念する学会員の声、さまざまな意見があり、このことは自治体学会の多様性を示しているとも言える。ここを掘り下げることによって、「自治の理念と現実」といったことを考えることができるのではないか。
- ・それぞれの会員の「自治体学会」への思いは様々。現在は、日本学術会議協力学術研究団体となっているが、学術会議に入るときに、これまで「市民・研究者・自治体職員で実務を実践し、研究交流する学会」だったのに、研究団体になるのか、といった議論もあった。自治体学会とはどういう団体なのか、幅広い声があるのではないか。
- ・日本学術会議の問題にどう対応するのか？ではなく、そこから出てくる論点を追求す

る場としたい。実は、このことを議論することは、自治体学会の在り方を議論することにもつながるのではないか。

- ・ 広く会員の意見を聞く場とするとしても、時間の経過もある中でどのような場の設定とするか。手法としては、ZOOMによる課題共有型の円卓会議、論点ごとに3回開催。⇒第1回目は、1月31日（日）14時～16時
- ・ 毎回、3～5人のゲストスピーカーに、それぞれの立場から話題提供していただくこととする。引き続き人選、出演交渉を進める。
- ・ 各回で出てきた会員の声を可視化して共有する。その場としては、例えば川崎大会のポスターセッションやスピニアウト企画などが考えられる。手法については引き続き検討する。

(2) 今後のスケジュールについて

- ・ 別添のとおり確認された。
- ・ 会員への周知をできるだけ早く行うため、「自治体学」発送時（12月末）にお知らせチラシを封入することとする。

(3) 次回日程

- ・ 第2回学術問題検討委員会：2021年1月31日（日）
- ・ その間は基本的にメールでの調整とする。

閉会

以上  
(文責：荒木)